



BLUE LOCK
UNOFFICIAL FANBOOK #2
KAISER*ISAGI

R18

それは酷く
曖昧な



この本はpixivで掲載中の「それは酷く曖昧な」の後日談になります。
未来軸BM所属、友人関係の2人が問答の末気持ちを実感する話です。

こちらからどうぞ！ →



自分の感情を
自覚させたのは

浅ましく
平凡で愚かな



独占欲



寄るな

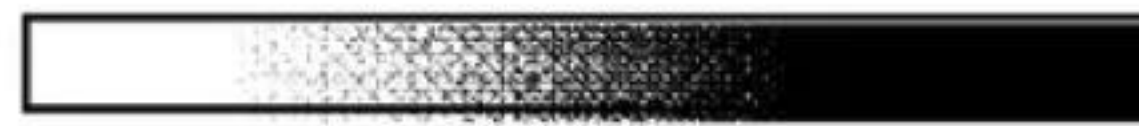
触るな

この曖昧な
関係に
名前をつける

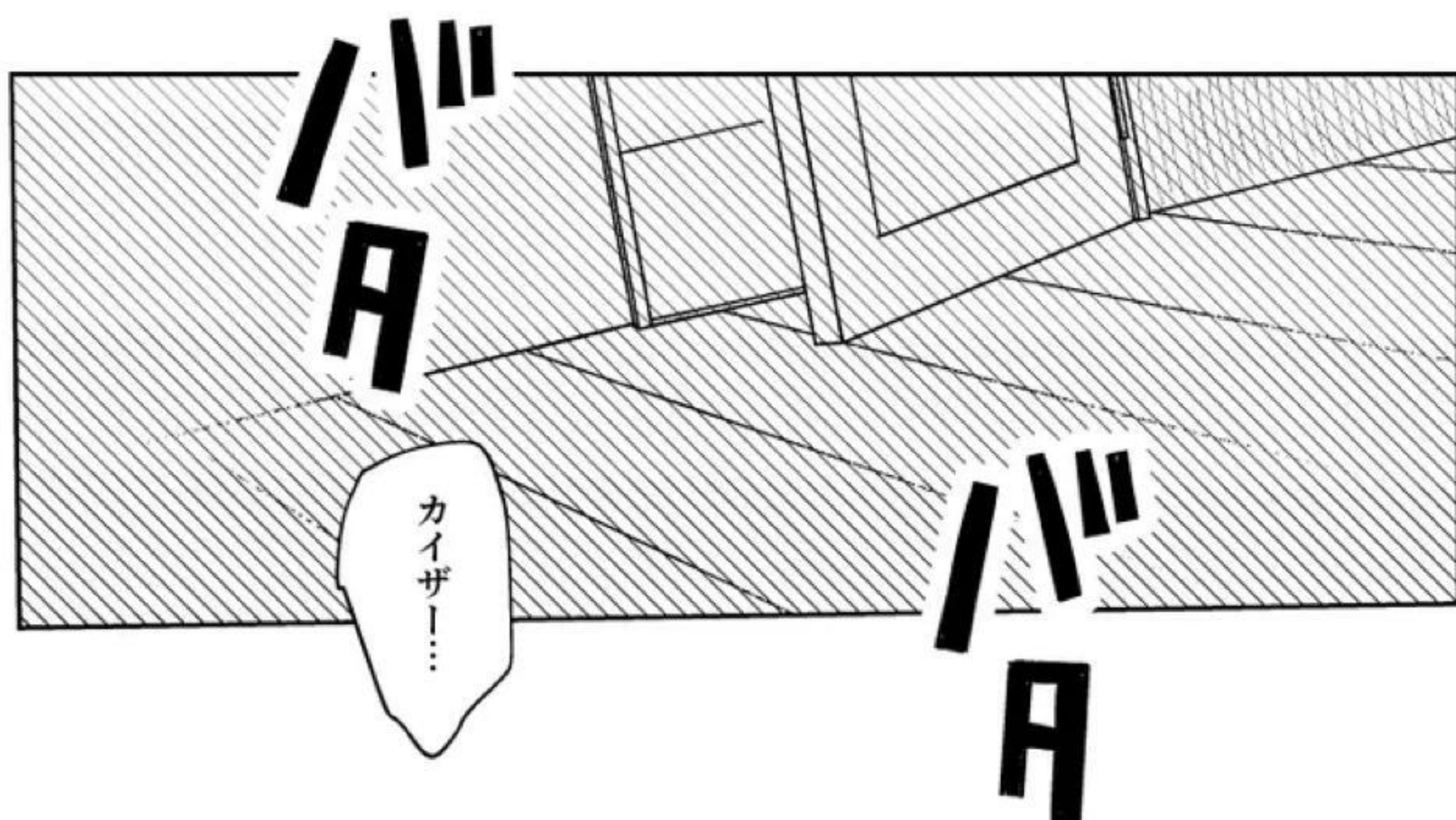
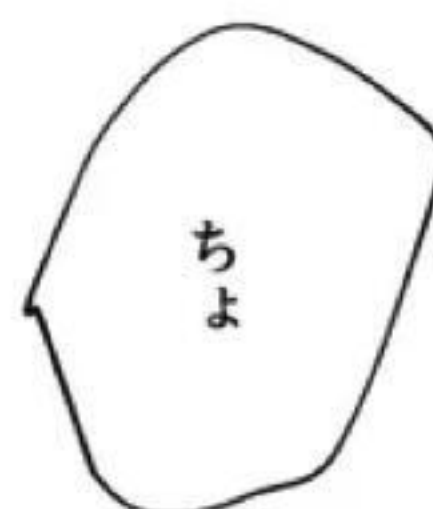


そんな
簡単なことで

潔世一を隣に
縛れるなら俺は



カ
ヤ
ヤ





まって



いやだ



嫌だじゃ
なくて

俺は
ゆっくり

ぐわん



舐めるな!



抱き潰して
いいって言ったろ

言っ……た
けど!

何コイツ
さっきまで自覚も
してなかったくせに

俺のこと
大好きか!



自分で脱げる……

から

いい



……

スッ
アッ



脱がすのも
楽しみなんだがな

俺は
楽しくない



てかさ

ね

カイザー
いつから俺のこと
意識してたの





ただ隣にいるのが
案外心地よくて



一緒に過ごす時間に
愛着と執着が
生まれて



自分の音しか
しない部屋が
広く感じた



お前が
俺以外の人間の
隣に立つ姿を見て

ただの子どものように
みつともなく

嫉妬した

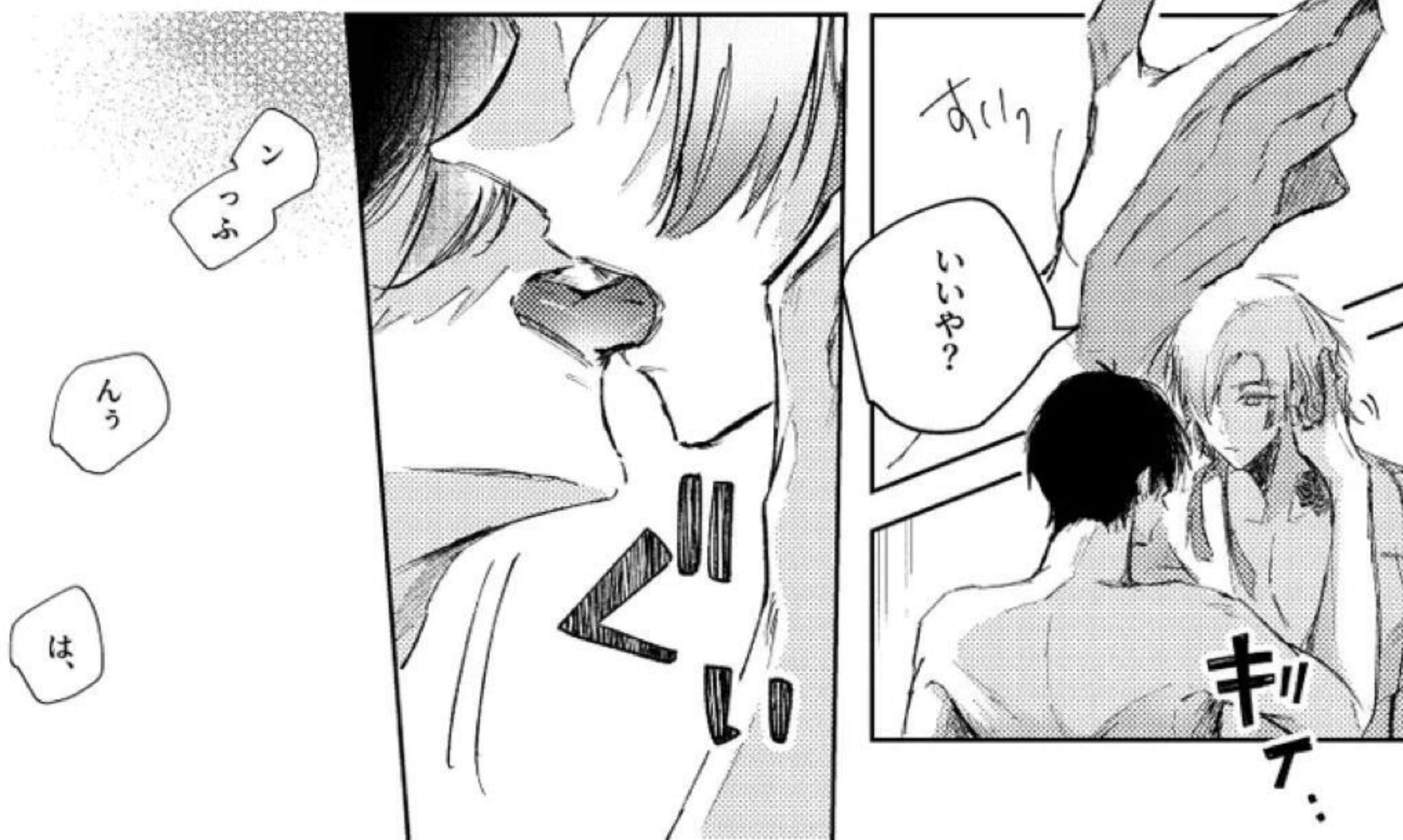
なんだこれは

理解らないは
気持ち悪い

感情の整理をする
それが答えに
一番近いから

あは
それで

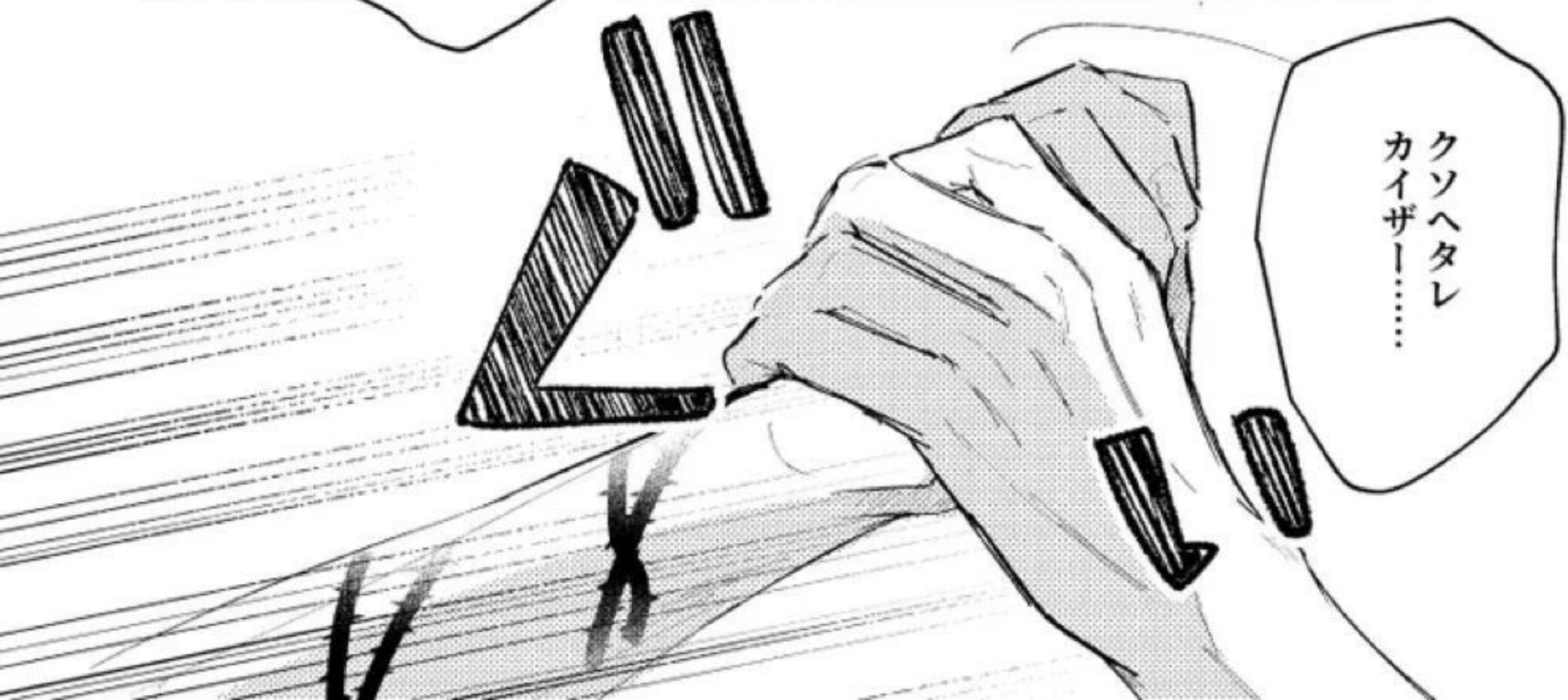
この俺が他人の
体温を渴望するなんて

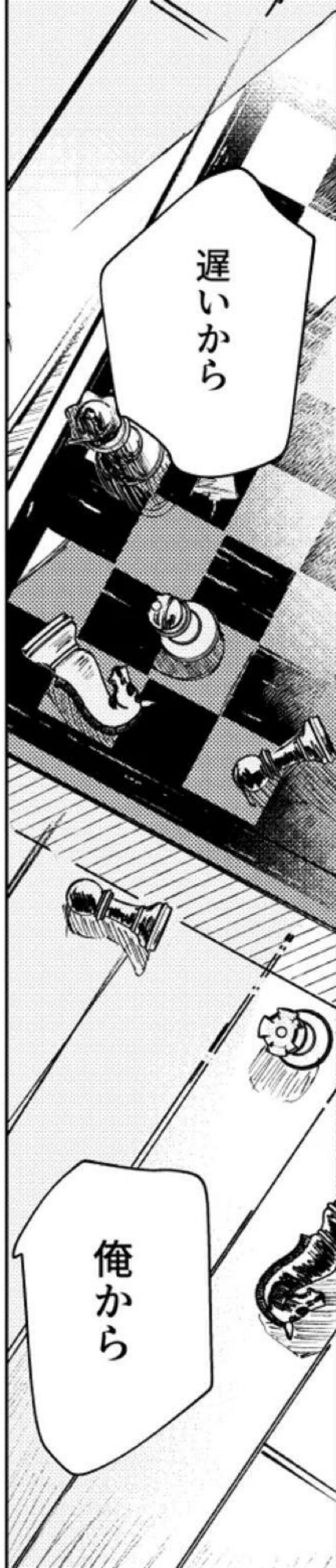
















まー！

まー！

はー♡

ローション
あるか

……引き出し

あるのか…



ん

…ッ！

うあ

くしゃ♡



とろお…

痛ければ
すぐ言え





(お)

ひう

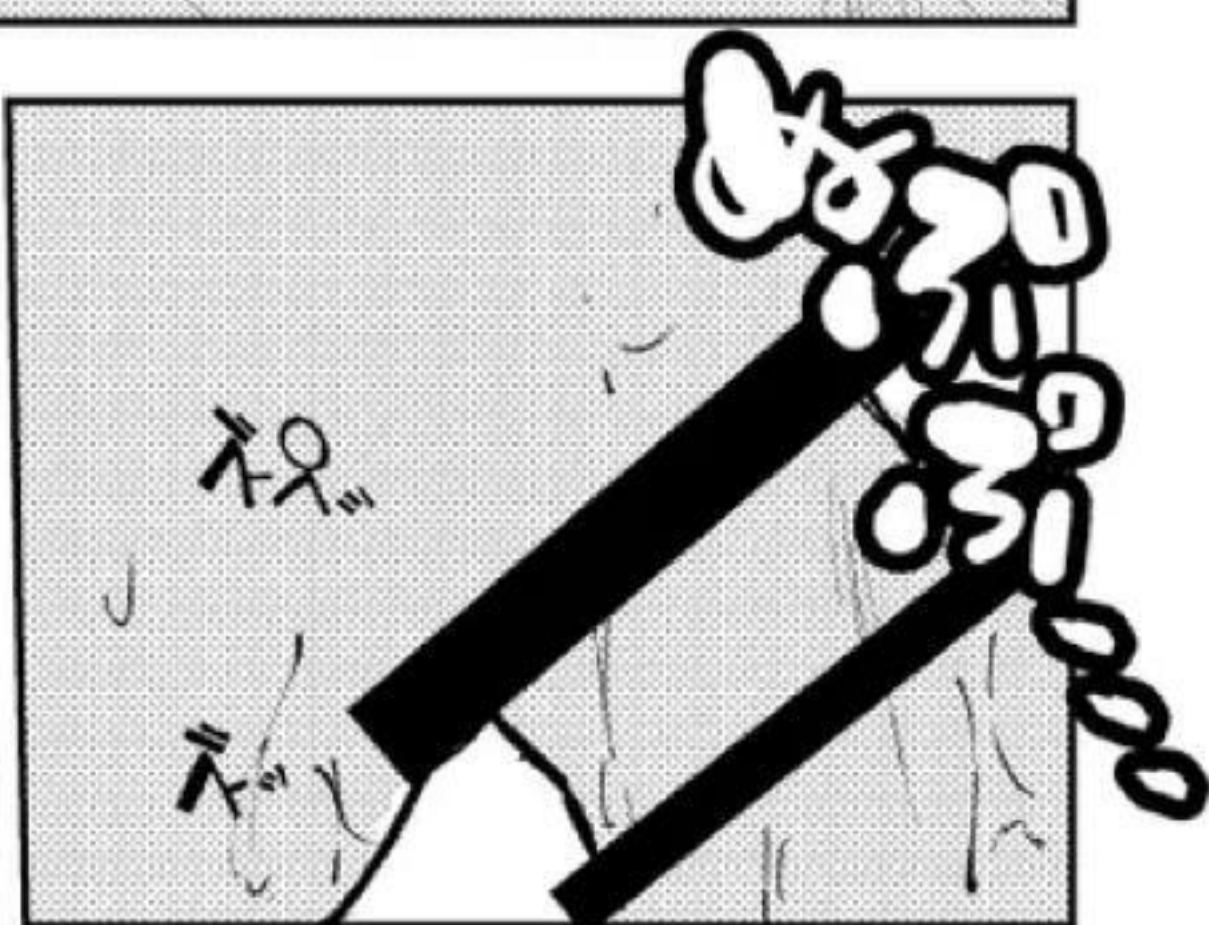


いいか



世二









Ich liebe dich.
(愛してる)

は、
いつ聞きたい

このまま
ベッドで囁き
続けてもいいが

ばか
今日は
もうしない

朝
起きて

一緒に
ご飯用意して

…明日

きゅん

